

# 未来を切り拓く志を支援する 「学生による社会スタディ」開催要項

公益社団法人 私立大学情報教育協会

IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどによるDX（デジタルトランスフォーメーション）が進展し、様々な分野で産業構造、人々の働き方、ライフスタイルが大きく変化しています。このような中で日本には、社会が抱える課題解決の創出国として自ら新たな成長分野を創り出し、チャレンジしていくことが求められています。

その源は若者一人ひとりの力に負うところが大きく、とりわけ未来に立ち向かい、自ら切り拓く高い志と意欲に委ねられています。ここでは、情報通信技術を活用して新しい価値の創出の重要性に気づいていただき、早い段階から発展的な学びが展開できることを期待しています。

## 1. 開催日時

日 時： 令和5年2月8日（水） 12:30～17:30  
会 場： オンラインによるテレビ会議形式（Zoom 使用）で実施します。

## 2. プログラム概要

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12:00       | Zoom 接続確認                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 12:30       | 開会挨拶                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 12:40       | 社会スタディの進め方について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 13:00～13:35 | <b>【有識者からの情報提供と意見交換】</b><br><b>「未来は君たちの手にある・DXやメタバースなどによるイノベーション」</b><br><b>須藤 修 氏（中央大学国際情報学部教授、東京大学大学院特任教授）</b><br>デジタル技術が産業・生活・文化に至る社会のあらゆる分野に浸透し、地球規模で、個人の幸せや社会の豊かさを実現する価値創造に結び付ける取り組みが進展している。世界の主流は、DX(デジタル変革)に加えてVX(現実世界と仮想世界を融合する変革)に大きく変わろうとしている。<br>未来は君たちの手にあるので、文理の境界を超え、新しい社会の創造に向けたスキルの習得や社会的実践を通じてイノベーションにチャレンジして欲しい。 |
| 13:35～13:50 | ※ 質疑応答・意見交換                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 13:50～14:00 | 休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 14:00～14:35 | <b>「意味のイノベーションによるアントレプレナーシップへのチャレンジ」</b><br><b>小西 一有 氏（合同会社タッチコア代表、九州工業大学客員教授）</b><br>グローバルなデジタル変革の中では、従来の「問題解決のイノベーション」では競争に勝てない。大事なことは、「モノからコト」へのような人々の生活の豊かさや幸せ感をもたらす「意味のイノベーション」を実現することである。そのためには、既成概念、固定概念を覆すような発想とそれを実践するマインド、すなわち「起業家精神」の訓練が重要であり、学生時代から失敗をおそれずにチャレンジして欲しい。                                                 |
| 14:35～14:50 | ※ 質疑応答・意見交換                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 14:50～15:25 | <b>「サイバーとフィジカルを融合した学びでデータ革命にチャレンジ」</b><br><b>大原 茂之 氏（東海大学名誉教授、株式会社オプテック代表取締役）</b><br>日本は新しい変化への対応が苦手な昔の成功体験から抜け出せないでいる。その要因の一つとして、領域ごとの活動にとどまっており、サイバー上でデータを横断的に活用し、物事を予測してリアルの世界で構想を実現していくことが遅れていることがあげられる。データ駆動型の社会で活躍するには、教室の学びだけでなく、サイバー空間を活用して多くの分野と交わり、データを科学的に活用し、新しい価値創造に主体的に行動することが求められる。                                 |
| 15:25～15:40 | ※ 質疑応答・意見交換                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 15:40       | 休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 15:50～16:50 | <b>【気づきの整理と発展】</b><br><b>気づきの整理と発展のためのグループ討議</b><br>※ グループで「情報通信技術を活かして未来社会にどのように向きあうか」について考える。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 16:50～17:30 | <b>気づきの発表</b><br>※ グループごとにまとめた結果を代表者が発表する。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 17:30       | 閉会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

### 3. 募集対象

国・公・私立大学の1年生・2年生で、オンラインによるテレビ会議（Zoom 使用）に参加可能な方

※ Zoom にネット接続し、Web カメラ、マイク等を用いて参加できることが参加条件になります。

### 4. 募集定員

① 「全プログラム参加者」 100 名（グループ討議を含む全てのプログラムに参加する学生）

※ 申込が定員を超えた場合、一部の大学に参加者が偏らないよう抽選等の方法で参加者を決定します。

② 「情報提供のみの参加者」100 名（有識者からの情報提供と質疑応答・意見交換に限定して参加する学生）

### 5. 応募方法と応募先 URL

本協会の以下の申込サイトからお申込み下さい。参加費は無料です。

申込みサイト <http://www.juce.jp/sangaku/syakai-study>

### 6. 応募締切

令和5年1月25日（水）

### 7. 参加者の確定

① 確定した「全プログラム参加者」には、1月末に「参加案内」と「Zoom の URL」、「プログラムの進め方」などをメールで連絡します。

② 確定した「情報提供のみの参加者」には、1月末に「参加案内」と「Zoom の URL」をメールで連絡します。

### 8. プログラムの進め方と学びの成果物の提出、修了証の発行について

（1）有識者からの情報提供と質疑応答・意見交換（全参加者が対象）

各有識者から35分程度の情報提供を行い、その後「Zoom の質問機能」を用いて15分程度の質疑応答・意見交換を行います。

（2）気づきの整理と発展のためのグループ討議（全プログラム参加者のみ対象）

「全プログラム参加者」は、有識者からの情報提供を受けて、社会的課題を解決するために ICT や AI 等を活用して未来を切り拓いていく学生自身の姿をイメージし、大学での学びにどのように取組もうとしているのかグループ討議を行い、その結果をグループで発表します。なお、「情報提供のみの参加者」には配信されません。

（3）学びの成果物について（全参加者が対象）

① 終了後に、学びの成果物を各自作成し2週間以内にメールで本協会事務局に報告いただきます。（A4、1枚）

② 本協会では学びの成果物を審査し、令和5年3月末に「修了証」を郵送します。なお、「全プログラム参加者」の中で優れた内容については、「優秀証」を発行し、所属大学の学長に報告するとともに、本協会の Web サイトを通じて紹介します。

### 9. 開催内容の公開について

① 有識者からの情報提供、質疑応答は、個人情報に配慮して編集した後に、ホームページ上で公開を予定しています。なお、「全プログラム参加者」によるグループ討議の様子は公開しません。

② 参加者の「情報提供、質疑応答、グループ討議」の撮影・録画は、著作権・肖像権の観点から厳禁とします。

### 10. 本件の連絡先

公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 担当 森下

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-14 九段北 TL ビル 4F

TEL : 03-3261-2798 FAX : 03-3261-5473 morishita@juce.jp